

特集

【春といえば】

Talking about spring,

フキノトウ

D@yosh

前職の会社の敷地内で、フキノトウを摘んだことを思い出します。

フキノトウは成長すると苦みが出るため、普通であれば4月に摘むのは難しいのですが、前職は大変に寒い地方だったため、フキノトウが程よい大きさに育つのは今頃でした。山菜というものは日当たりのよい場所に育つらしく、数年前に工場を建てるため森を切り開いたその場所は、見たことが無いほどの沢山のフキノトウが群生していました。

当時の私は退職を申し出て残務整理のために出社しており、もう二度と目にすることが無いであろう、フキノトウが群生するその風景を胸に刻もうとしていました。そこで思いついたのです、これは採って食べてしまっても良いのではないかと。

フキノトウが群生する場所は、社内の大通りの脇に位置しており、かなりの人目につく場所です。仲の良い同僚に見られても問題ないのですが、会社には色々なタイプの間があるのも、もちろん業務時間外にやるとはいえ、白昼堂々と会社の敷地内で山菜採りをするのは普通であれば躊躇します。ですが、退職を申し出て1ヶ月もすれば出社する必要が無い私からすれば、もう怖いものはありませんでした。

いよいよ決行の日、昼休みのチャイムと同時にフキノトウが群生するその場所へ向かいます。上着が無ければ少し肌寒く、日差しがあれば温かい、日当たりが良い場所での山菜採りには絶好の天気です。

フキノトウの根元を隠す落ち葉をそっと押し分け、カッターナイフの刃を差し込んで葉に当たる本体を摘む、その作業を夢中でやっていると、昼休みが終わる頃には持ってきたビニール袋は満杯になってしまいました。

摘んできたフキノトウの一部はアンチョビと混ぜてパスタソースになり、残りは実家に持ち帰って天ぷらになりました。ほろ苦いその味は、自由の味だったと思います。



タイのお正月

とみこ

春といえば、卒業、桜など浮かぶのが一般的ですが、私の「春といえば」はソンクラーンです。ソンクラーンとは、タイのお正月のことで、「水かけ祭り」として知られています。なぜ水をかけあうかというと、昔から仏像等に水をかけてお清めをする風習があり、これが転じて今の水かけ合戦が行われるようになったそうです。

そんなソンクラーンを、バンコクのはずれにある地域に体験しに行った時の思い出についてお話しします。街行く人と水かけ合戦をしながら楽しんでいた私と友人は、露天の喫茶店で休憩することにしました。私たちのテーブルに座っていたのは初老の男性。当時タイ語を習っていた私は、その老人に話しかけ、簡単な会話を始めました。すると老人は、私と友人を自分の地区の宴会に招待するからついてきなさいと言いました。危険を感じたらダッシュで逃げようと考えつつ、老人と商店街を歩くこと数分、目の前には道路にテントを立て、おいしそうなおちそうが載ったテーブルを囲んで住人がパーティをしていました。それはいわゆる地域のお祭りです。老人はその地区の長老だったのです。陽気に酔っ払った地域の住人に大歓迎され、片言のタイ語と英語でやりとりをしながらおちそうをいただき、最後には長老にTシャツまでお土産をもらい、私のソンクラーンは最高の旅の思い出となりました。

タイは、旅行するときは気を付けなければならないことがたくさんありますが、それ以上に人のやさしさに触れる機会が多い国であると個人的に思います。毎年春といえば、びしょぬれで歩いた商店街と地域の人たちの笑顔を思い出しては暖かい気持ちになる季節です。



ピクニックと虫

みかん

私は季節の中で春が一番好きです。なんといっても気候と春の匂いが最高で、幸いにも花粉症ではないので、晴れた日にはよく散歩に出かけます。

昨年の春、長いGW中盤のある日、少し暑いぐらいの気候でしたが気合を入れてピクニックに出かけたことがありました。お弁当とおやつとバドミントンを持って、いぎ芝生のある公園へ。少し小高い丘の上、大きな木の下の木陰にレジャーシートを敷いて場所を確保しました。最初はよかったのです。外で食べるお弁当は美味しいし、春の空気は気持ちがいい。しかし、スタートして間もなく、黒くて丸い、大きな飛ぶ虫が何匹も出没することに気が付きました。名前はわかりませんが、耳にブーンとくるアブみたいな虫でした。私は虫が大嫌いです。地元が田舎なので昔は家族でよく虫取りに出かけていたのにも関わらず、なぜか極端な虫嫌いになってしまいました。特に飛ぶ虫は予測不可能な動きをするので、一番苦手です。運動中は気にならないだろうということで、お弁当を高速で消費し、バドミントンをするにしました。しかし、バドミントン中にも耳にブーンとやってくるし、たまにラケットに虫が当たり、気になって全然集中できませんでした。

そんなこんなで意気揚々と臨んだ私たちのピクニックはものの30分程度で終了しました。予想以上に早く終わってしまい、気を取り直して帰り道に美味しいケーキを買って、結果オーライにした覚えがあります。

虫が活発になる季節ですが、やっぱり春はとても好きなので、今度は虫の少なそうな公園でピクニッククリベンジをしたいと思います！



春は旅

M.I.

春といえば、私は旅の季節だと思っている。風光明媚な景色を楽しみに行楽地を訪れる観光客は、少なくないだろう。私も春になると旅に出かけたい。特に飛行機に乗って出かける旅が好きだ。機体が離陸するにつれ、旅先への期待も上昇する。

私は、ドイツでの思い出が強く印象に残っている。ヨーロッパの国々は、いずれも歴史的な建物や史跡が多く残っているが、ドイツは小さな連邦国家の名残からか街ごとに特色があると思う。

数年前、個人旅行でベルリンを訪れたことがある。森鴎外の小説『舞姫』にも登場するウンターデンリンデン通りは、今でも都市を代表する大通りであり、ブランデンブルグ門もまた、教科書で習う歴史が現在とつながっていることを実感させる存在である。

このとき、現地でクラシックコンサートを聴きに行く機会があった。チケットの手配から会場までの移動を自分で手配した。冷たい雨の中、目的地にたどり着けるか不安になりながら地下鉄で会場まで向かったことは、今でもよい経験だったと思っている。

コンサートでは、楽団員の中に数名の日本人らしき人を見かけた。お土産用に買ったパンフレットには、日本人と思われる名前をいくつか見つけることができた。異国の地で頑張る彼らを応援したくなったのは、不安になりながら会場にたどり着いたからだろう。彼らと直接の面識はないが、今でも活躍が気になっている。こんな発見も、また、旅の思い出の一つだと思う。

今年もまた、旅の季節がやってくる。次は、どこに行こうか。どんな発見があるのか、期待するだけでも楽しくなってくる。きっとそれは、気温のせいではないと思う。

